

平成6年度 研究部活動報告

池田 正雄 西原口伸一
林 正太 平賀 伸夫
研究部

要 約

本年度の本校研究部の方針は、従来通り、研究面における良き推進力になり、研究活動の活性化を図ることである。具体的には、(1)「研究部としての日常的業務を行うこと」、(2)「小・中の教育のスムーズな連携を図るために、竹早小学校との共同研究をさらに進めて行くこと」の2点である。(2)については、昨年度、竹早11年間でどのような子供を育てていくかという、竹早の教育の基盤が整ったので、本年度はそこから一歩でも前進する方向で、「授業の観察」「できる範囲での生徒間交流」の2つを取り組みの方針として研究活動を行ってきた。

キーワード 研究部 小・中の教育の連携

I 本年度研究部内役割分担

- (1) 附属研究会・研究推進委員会関係 池田
・附属学校研究推進委員会への出席および報告
- (2) 研究紀要 平賀, 林
・研究紀要原稿の募集, 取りまとめ, 編集, 発注, 発送等
- (3) 全国附属学校関係 平賀, 林
・全国附属学校の研究会案内の受理および教官への案内
・全国附属学校の研究紀要等, 研究物の受理および保管管理
・「日本教育新聞」の受理および管理保管
- (4) 校内研究推進 西原口, 林
・校内研究授業の企画および運営
・校内研修会の企画および運営
- (5) 予算・記録 西原口, 池田
・予算の執行および部会等の記録, 文書の保管整理
- (6) 竹早地区幼・小・中将来構想合同委員会関係 池田

II 本年度の主な活動内容

1 校内研究会

(1) 第1回校内研究会 ※第1回地区合同研修会と兼ねる。

- 日 時： 平成6年6月29日(水)実施
- 主 旨： 小・中間で、教育の連携を進めていくには、校種の壁を取り払い、小学校、中学校の双方がお互いの授業を見合うことから始め、授業の方法や組み立て方の共通点や相違点を発見することが第一段階であると考え、本研修会を開催した。今回は、特に、中学校側が小学校の授業を観察し、小学校ではどのように授業が進められるのかに焦点を絞り、授業の雰囲気、教師の発問の仕方と児童の反応、児童の掌握の仕方、学習内容の提示の仕方等、を学び、教育の連携の糸口をつかむことをねらう。

●公開授業

授業者・提案者： 大場隆久教官(算数科)

授 業 内 容： 単元名「整数の性質」

本時の学習「きまりをみつけて解く」

対象学年・組： 竹早小学校5年2組

●研究協議会

全体会Ⅰ： 授業者からの自評

分科会： 全体を4分科会に分け、討論

本日の公開授業を話し合いの糸口として、小学校での授業の進め方、授業の雰囲気、教師の発問の仕方と児童の反応、児童の掌握の仕方、学習内容の提示の仕方等、小・中の共通点、相違点を話し合う。

全体会Ⅱ： 各分科会からの報告

まとめ

(2) 第2回校内研究会 ※第2回地区合同研修会と兼ねる。

- 日 時： 平成6年11月2日(水)実施
- 主 旨： 前回6月に行われた小学校での授業研究会を受けて、今回は逆に中学校の授業を見ることにより、小・中間における授業の方法や組み立て方の共通点や相違点を発見することにした。従って、今回は、小学校側が中学校の授業を観察し、中学校ではどのように授業が進められるのかに焦点を絞り、授業の雰囲気、教師の発問の仕方と生徒の反応、生徒の掌握の仕方、学習内容の提示の仕方等、を学び、教育の連携の糸口をつかむことをねらう。

●公開授業

<公開授業Ⅰ>

授業者・提案者： 荒井正剛教官(社会科)

授 業 内 容： 単元名「東南アジア」
本時の学習「多様な民族と国づくり」

対象学年・組： 竹早中学校1年A組

<公開授業Ⅱ>

授業者・提案者： 浅野和子教官(国語科)

授 業 内 容： 単元名「古典のとびら」～竹取物語～
本時の学習「グループによる朗読、創作の発表会」

対象学年・組： 竹早中学校1年B組

●研究協議会

全体会Ⅰ： 授業者からの自評

分科会： 全体を4分科会に分け、討論

前回の小学校での授業を参考にしながら、中学校での授業の進め方、授業の雰囲気、教師の発問の仕方と生徒の反応、生徒の掌握の仕方、学習内容の提示の仕方等、小・中の共通点、相違点を話し合う。

全体会Ⅱ： 各分科会からの報告

まとめ

(3) 第3回 校内研究会<講演会> 平成7年2月15日(水)実施

大学における将来計画委員会では、着々と学内の将来計画が進められているが、その中で、竹早地区は、大学に設置される「カリキュラム研究センター」のランチとして位置付けられ、「カリキュラム実践開発センター」として研究を進めることが計画の中に盛り込まれている。そこで、今回の研修会では、講師に、本学の原聡介教授をお招きし、竹早地区としてのこれからの研究の方向性等について、ご教示、ご示唆をいただいた。

●テーマ「将来計画に基づいた大学・附属のカリキュラム研究センターについて」

講師 東京学芸大学教授 原聡介先生(教育学科教育学研究室)

●講演概要 1 附属学校問題

1) 東京学芸大学の自己点検として

- ・学部の反省
- ・白書(附属学校の現状)
- ・附属学校の設置目的(国立学校設置施行規則)について

2) 「大学における教員養成」の下における附属学校問題

- ・学部との連携の不十分
- ・地域の学校に対する指導機会の減少
- ・進学学校的性格

3) 教員養成の将来像の中で

- ・教育実習の再検討

教育実習の2つの概念～「教育実習」と「教育実地研究」

6年制養成制度を見通しながら

- ・カリキュラム研究センターの構想
- ・大学院博士課程の構想における附属学校

2 カリキュラム研究の意味

1) カリキュラム

- ・ curriculum course of study
- ・教科課程から教育課程へ
- ・教育内容と教材

2) 教科教育学の課題

- ・教科専門と教科教育
- ・学習指導研究の偏重
- ・カリキュラム研究の重要性

3) カリキュラム研究へ向けて(センター構想の手がかりとして)

- ・データベース作り～全国規模の教材開発の調査収集
- ・教育課程に関するカリキュラム開発
- ・学部、附属の研究組織

3 現代教育と教育学

1) 何のための教育か

2) 今日的教育課題にどう対処するか

- ・現代文化に対する責任と教育

2 竹早地区幼・小・中将来構想合同委員会

昨年度は、竹早地区11年間でどのような子供を育てていくかという基本的な教育理念が整ったので、本年度は、そこから一歩でも前進する方向で取り組みを行った。具体的な活動方針については、教師、生徒間のスムーズな交流がまず基本になると考え、次の方針を立てた。

- 授業の観察
- できる範囲での生徒間交流

なお、本年度の具体的研究活動については、上記Ⅱ、1に記載されているので、ここでは省略する。